

一 (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 6点

(解答) ホ

問二 12点

(模範解答例)

A ○ 4点

B ○ 3点

知覚は内容がすでに決まっているものに焦点を絞って知ることであるのに対して、注意は現実をそれとして

C ○ 5点

個体化させる働きであり、内容がなんであるかが決まっていないものに気づくことだから。 (89字) (12点)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

ただし、Aで「知覚は」、B(C)で「注意は」の両方とも明示されておらず、どちらの説明かはっきりしない場合は全体✖。

A 「知覚は内容がすでに決まっているものに焦点を絞って知ることである」 (4点)

▲Bに「注意は」と明示されているが、Aで「知覚は」ということが明示されていない場合、▲2点減点。

○「知覚は成立した現実のなかでなんであるかを知る働きの中心にある」としても可

○「知覚は見るべきものが決まっている、見えるものが見えているだけ」としても可

B 「注意は現実をそれとして個体化させる働きであり」 (3点)

▲Aに「知覚は」と明示されているが、Bで「注意は」ということが明示されていない場合、▲2点減点。

▲「固体化」の指摘が無い場合は▲1点減点。

C 「内容がなんであるかが決まっていないものに気づくことだから」 (5点)

○「注意」についての説明であることがBかCで明示されていること。

○「気づくこと」は「自分で発見すること」などでも可。

▲「内容が決まっていないもの」の指摘がない場合は▲3点減で△2点

▲文末不備…▲1点減点

問三 6点

(解答) イ

問四 8点

(模範解答例)

A〇5点

B〇3点

浮世絵全体の奇妙な雰囲気を支えている要のものがなんであるかに注意が向いて、その注意から人物の髪に

焦点を絞っていること。(59字) (8点)

■各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「浮世絵全体の奇妙な雰囲気を支えている要のものがなんであるかに注意が向いて」 (5点)

▲ 「要のもの」の要素が抜けている場合▲2点減点。

○設問で「浮世絵の例に即して」とあるので、「浮世絵」という語は使っていない可、そうだとすれば明示されていなくても可。

B 「その注意から人物の髪に焦点を絞っていること」 (3点)

▲ 「髪をきっかけに(／＼から)焦点を絞り」など、「髪に焦点を絞っている」ことが曖昧(どこに焦点を絞っているかが曖昧な・別のところである可能性があるようにも読める)表現は▲1点減点。

▲ 「髪が奇妙なバランスの元と気づく」など、「髪に焦点を絞っている」ことの指摘が不十分な表現は▲2点減点。

※ 「髪」に焦点を絞っていると明らかに取れない表現は✕。

A〇5点

B〇3点

5 浮世絵の奇妙さについて絵全体の雰囲気を支えている要がなんであるかに注意を向け、その注意から焦点を髪にあてていること。(8点)

A△3点

B✕0点

6 寺田寅彦とは、奇妙さのバランスを持つ浮世絵を、髪が全体を支える要だと注意を向けてから、**顔を絞る**、**顔を絞る**、解しているといふこと。(3点)

問五 4点

(解答) ニ

問六 4点×2＝8点

(解答) X＝□ Y＝二

問七 6点

(解答) 八

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 超克 2 核心 3 裁定 4 破綻

問二 6点

(模範解答例)

A ○ 3点

B ○ 3点

永遠を生きる全知全能の神は、人間のように過去を思いつつ未来への希望と不安に悩むことがないから。

(48字) (6点)

■ 字数：五十字以内 二十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 形式上の不備

- ・ 文末表現：要素B参照／内容説明の結び「くこと」になっている場合は、要素B不可。
- ・ 句点の扱い：1点減点

■ 各加点要素の加点の条件

A 「永遠を生きる全知全能の神は」(3点)

- 神が全知全能で、過去・現在・未来のすべてを知っているということについて説明していること。
- 「全知全能であること」「過去・現在・未来のすべてを知っているということ」のいずれかの指摘があれば○。

B 「人間のように過去を思いつつ未来への希望と不安に悩むことがないから」(3点)

- 人間は過去から未来へという流れの中で悩む存在であるが、神はそうではないということについて説明していること。
- ✖ 説明していないものは要素B加点なし
- ✖ 「人間は過去から未来へという流れの中で悩む存在であるから」のように、「神はそうではない(神は思い悩む存在ではない)」の部分が抜けているものは不可✖。

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○2点

ニュートンの考える永遠に均質な時間は、人間や自然の変化や発展を考えることを自明のことだとする現代人の常識に反するものであると考えているから。 (70字) (8点)

■字数：七十字以内 **三十四字以下のものは全体不可(0点)**

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■各加点要素の加点の条件

A 「ニュートンの考える永遠に均質な時間は」(3点)

○ニュートンが永遠に均質な時間を想定したことを説明していること。

※説明していないものは要素A加点なし。

○「ニュートンは歴史的時間を排除している」のような表現でも可。

▲「ニュートンの「本質的には何んの変化も起らぬ惰性系」である時間は」のように、ニュートンの考え方の説明が引用のままになっている場合は▲2点減点

B 「人間や自然の変化や発展を考えることを自明のことだとする現代人の常識に」(3点)

○ニュートンとは逆に、現代人は変化や発展を考えることが常識になっていることについて説明していること。

※説明していないものは要素B加点なし。

C 「反するものであると考えているから」(2点)

○要素Aは要素Bに反したことであることを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし。

問四 3点 2 || 6点

(解答) 「故」.. 歴史的経験 (3点)

「数」.. 今の数量 (「今の数字」も可) (3点)

※ぬきだし問題のため、これ以外不可。

(解答) a 技術的理性(3点)

b 反理性(「非合理」も可)(3点)

※ぬきだし問題のため、これ以外不可。

問六 16点

(模範解答例)

A○4点

B○4点

全知全能の神の悠久の今を描く神話は、近代科学的思考で世界の今を数量化して把握しようとする啓蒙主義

C○4点

に代わられ、それが破綻した時にはフアシズムという非合理的な考え方が生じて人々はそれに陶酔するが、

D○4点

それらには歴史に学ぶという姿勢がなく危険だから。(120字) (16点)

■字数：百二十字以内 六十字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■各加点要素の加点の条件

A「全知全能の神の悠久の今を描く神話は」(4点)

○神話の内容として、永遠の今が描かれているということを説明していること。

※説明していないものは要素A加点なし

▲「永遠の今」を「歴史を超越した」「歴史がなく」のように説明しているものは説明不足で▲2点減点。

B「近代科学的思考で世界の今を数量化して把握しようとする啓蒙主義に代わられ」(4点)

○啓蒙の内容として、今の数量化がされているということを説明していること。

※説明していないものは要素B加点なし

C「それが破綻した時にはフアシズムという非合理的な考え方が生じて人々はそれに陶酔するが」(4点)

○要素AとBのあとに、非合理的なフアシズムが台頭し人々はそれに陶酔するということを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし。

※「フアシズム」について、「非合理的」「理性的ではない」等の説明がなく、単に「フアシズム」として
いるもの(「フアシズム」とはどういうものか説明していないもの)は不可※。

D「それらには歴史に学ぶという姿勢がなく危険だから」(4点)

○要素A・B・Cには歴史に学ぶ姿勢がないため危険であるということを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし

【三】(古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) ㉑ けしき ㉒ ひじり

㉓ ゆえ

■ 表記・字数

- ・ 三字以内・ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。
- ・ 句読点不要(不問)。

■ 各加要素の加点の条件

- ㉑ ○ 「きそく」も正解とする。
× 「きしよく・けいろ」などは×。
- ㉒ × 正解以外は×。「ひじり」なども×。
- ㉓ × 正解以外は×。「ゆゑ・ゆえん」なども×。

問二 1点×6＝6点

(解答) ① 過去推量(1点) ・ 連体(1点)

② 意志(1点) ・ 終止(1点)

③ 完了(1点) ・ 連用(1点)

※ いずれも正解以外は×。誤字がある場合は×。②「意思」は×

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 二 乙 口 丙 八

(解答例)

A○1点 B○1点 C○3点

関白が、統理に、出家したら自分を極楽往生に導いてくれと頼んだ。(5点)

■ 表記・字数

- ・ 字数制限無し。
- ・ 文末表現指定なし。説明が成立していれば「こと」でなくてもよい。
- ・ 句読点の有無不問。

■ 各加点要素の加点の条件

A 「関白が」(1点)

- 主語が「関白」であることが読み取ればよい。
- 「関白」は「藤原道長・道長・当時の関白・時の関白」などでもよい。

B 「統理に」(1点)

- 対象(相手)が「統理」であることが読み取ればよい。
- 「統理」は「少納言統理・藤原統理」などでもよい。

C 「出家したら自分を極楽往生に導いてくれと頼んだ」(3点)

- ① 「極楽往生・往生・極楽へ行くこと」等の意、もしくは、「来世のこと・死後のこと・後世のこと」等の意が読み取れば【2点】。
- ② 右の意がある上で、「自分の・道長(関白等↓要素A)」の意が読み取れば【+1点】。
- 「出家したら・出家後」の意の有無は不問。

問五 6点+4点=10点

(1) 6点

(解答例)

A○1点

B○2点

C○2点

かねてからの望みどおりは、出家したのには、物理的にあきらむべきからず、仏道修行する様子もない。 (6点)

■ 各加点要素の加点の条件

A 「かねてからの望みどおりに」(1点)

- ※ 「本意のごとく」の現代語訳
 - 「望み」は「希望・願い・念願」等でもよい。
- この場合、「かねてからの」に相当する表現の有無は不問。

○「かねてからの・以前からの・もともとの・もとからの・本来の」等があれば、「望み」は「意志・

思い・想い」等でもよい。

※「かねてからの」等がない「意志・思い」等や「本意」のままになっている場合は✕。

※「どおり」は「〜のように」等でもよい。

B 「出家したのに」(2点)

※「頭おろしてけれど」の現代語訳

①「出家する」の意が読み取れれば【1点】。

※「出家」という表現がない場合は✕。

②「出家する」の意がある上で、完了・過去の意「〜た・〜ってしまった」と逆接の意「けれど・が」等があれば【+1点】。

○「剃髪して・髪を剃って」等の意の有無は不問。

C 「つくづくと物思いにふけてばかりで」(2点)

※「つくづくとながめがちにて」の現代語訳

①「物思いにふける・しみじみと物思いする・思い悩む」等の意が読み取れれば【1点】。

②右の意がある上で、「つくづく・〜しがち・〜してばかりで」等や、「とても・たいそう・ひどく・非常に」等、程度(甚だしいこと)を意味する表現があれば【+1点】。

※「しみじみと」は「つくづく」に相当しない。

D 「仏道修行する様子もない」(1点)

※「勤め行ふこともなし」の現代語訳

○「仏道修行しない」の意が読み取ればよい。

○「仏道修行しない」は「勤行／修行しない」でもよい。

※「仏教」の意が読み取れない「お勤め・行い」等は✕。

(2) 4点

(解答例)

A ○2点

B ○2点

臨月を迎えた 女を俗世に残してきたことが気にかかってならなかったから。 (4点)

■各加要素の加点の条件

A 「臨月を迎えた」(2点)

○「臨月を迎えた(臨月である)ことが気になったから」の意が読み取れれば【2点】。

○「臨月」は「産み月(産月)・出産する(子を産む)時・子を生む予定の時期・もうすぐ子が生まれる」等でもよい。

△右の意がなく「妊娠(懐妊)している・子を身籠もっている・子を生みそうな・子が生まれそうなの」等でもよい。

B 「女を俗世に残してきたことが気にかかってならなかったから」(2点)

○「女」は「妻」でもよしとする。

○「女」は「妻」でもよしとする。

○「俗世(都)に残してきた・見捨てた・残して出家した」等の意の有無は不問。

○「俗世のことは思い捨てたが」等の意の有無は不問。

○「(お腹の)子が気がかり」の有無は不問。

問六 8点

(解答例)

A ○3点

出家して奥深い山に入り、常々仕えていた東宮のもとを離れたことが寂しく思われるので、

B ○5点

自分以外の誰かが東宮に親しく仕えてほしくない、ということ。(70字)(8点)

■表記・字数

- ・七十字以内。
- ・文末表現指定なし。解答例に準ずる。
- ・句読点の有無不問。

■各加点要素の加点の条件

A 「出家して奥深い山に入り、常々仕えていた東宮のもとを離れたことが寂しく思われるので」(3点)

① 「東宮に会えず寂しい・東宮と離れて悲しい」等の意、または「東宮のことが忘れられない・東宮に仕えたことが懐かしい」等の意が読み取れば【2点】。

✖ これらの意がない場合は✖。

② 右の意がある上で、「出家して・出家後」、または「山(奥山)に入って」の意があれば【+1点】。

○ 「東宮」は「親王・居貞親王・居貞・三条院・三条帝・三条天皇」等でもよい。

○ 「常々仕えていた・かつて仕えた」等の意の有無は不問。

○ 「人々との交流が絶えた・俗世の人との交流が絶えた」等の意の有無は不問。

B 「自分以外の誰かが東宮に親しく仕えてほしくない、ということ」(5点)

○ 自分以外の者が東宮と親しくしてほしくない」の意が読み取れば【5点】。

△ 「東宮に」の意が要素Aから読み取れるものの、要素Bに明らかに書かれていない場合は【4点】。

○ 「自分以外の者」は「人・他の人・他人・他の臣下」等でもよい。

問七 6点

(解答) 二

問八 1点×3＝3点

(1) 1点

(解答) 鴨長明 (1点)

✖ 漢字指定。ひらがな・誤字は不可✖。

(2) 1点×2＝2点

(解答) イ・ホ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a いよいよ b たちまち

c と d あたわざるを

「採点のポイント」

△歴史的かなづかいは△1点

例 d あたはざるを・・・△1点

※仮名不足

例 a 「いよ」…×0点 b たちま…×0点 d あたわざる…△1点 あたわず…△1点

問二 8点

A○2点

B○1点 C○2点

(解答例) 一緒に天平山に登った誰もが、筆者が 絶景見たさに勝手な行動をして

D○1点 E○1点

F○1点

道に迷い、木こりに助けられるという事態になったことを非難したということ。(8点)

「採点のポイント」

A 「一緒に天平山に登った誰もが」(2点)

▲「誰もが」の内容だけで、「同行者」「一緒に登った」「友人ら」の内容がないものは▲減点1点。

B 「筆者が」(1点)

○「高啓」も可。

C 「絶景見たさに勝手な行動をして」(2点)

○「絶景を見たさの好奇心から」「絶景を求めて一人難路を歩き」などでも可。

▲「絶景見たさ」の要素が抜けている場合は▲1点減点。

D 「道に迷い」(1点)

○「道に迷う」内容があれば○。

E 「木こりに助けられる」(1点)

○「木こりに導かれ戻った」などでも可。

F 「非難した」(1点)

○「非難する」「批判する」「諷める」「注意する」などで○。

×「とがめる」のママは×0点。「ばかにする」などのずれも×0点。

問三 4点

(解答) 菊 (4点)

問四 6点

A○2点

B○1点

C○2点

(解答例)

人々の中には、家や土地を離れて、あちらこちらに、行ってしまふ者が

D○1点

多かつた。(6点)

〔採点のポイント〕

A 「人々」は、「庶民」「人民」などで○。

B 「家や土地」は、「故郷」「住居」「住んでいるところ」などで○。

C 「あちらこちらに、行ってしまふ」は「散り散りに」「どこかへ」「離散する」「離れ離れに」などの表現で○。

D 「多かつた」は「多い」「大勢いる」「たくさんいる」などで○。

問五 8点

A○1点

B○2点

C○1点

(解答例)

乱れた国情のなかで、自分たちはお上のお陰で地位を保ち、

D○1点

E○1点

F○2点

友人らと名山に登り、節句を祝い酒宴ができて、ありがたいということ。(8点)

〔採点のポイント〕

B○ 「自分たち」は「高啓や友人」「作者」「筆者」なども可。

D○ 「友人ら」はなくとも可。「名山に登り」は「景色を楽しみ」なども可。

E○ 「節句」は「季節の行事」「重陽の節句」なども可。

△D Eあわせて「いい思いをし」などは1点。

F○ 「ありがたい」は「めったにできることではない」「簡単なことではない」なども可。

(解答) 恐_二盛衰之不_レ常、離合之難_一保也

〔採点のポイント〕

○返り点一か所2点。

▲誤りは一か所減点1点。

▲送り仮名も施した場合：何か所あっても減点3点

問七 10点

A○3点

B○2点

C○2点

D○3点

(解答例) 栄枯盛衰の变化の激しい世の中にあつて、自分たちがまたいつ会える分らないと考へ、
来年重陽の節句を迎えて山に登ったときに、考へるよすがにするため。(10点)

〔採点のポイント〕

A○現状の不安定さを述べる言葉があれば可。

B△「自分たち」の要素がないもの△1点

C△「来年」の要素に1点。「次に」なども可。

○「重陽の節句」は「節句」「行事」なども可。

○「山」は「天平山」「高い所」なども可。

○「山に登る」がなくとも「集まる」「会う」も可。

D○「考へるよすが」は「考へる」、「よすが」の片方だけでも可。「参考」「きっかけ」「縁」「たより」などで○。

▲文末表現：「ため・から・ので」などがない場合：▲減点1点。